

「2025 Global Team Race Regatta」出場報告書

– Newport Harbor Yacht Club, California –



牧野碧依
高山達矢
鹿野千尋
吉富愛

1. はじめに

令和7年10月1日から4日にかけて開催された「2025 Global Team Race Regatta」に、九州大学と神戸大学のOB/OGメンバーで構成されたチームで出場しましたので、以下の通り報告いたします。

2. 日本代表メンバー

牧野碧依（九州大学 ヨット部OB）
高山達矢（九州大学 ヨット部OB）
鹿野千尋（九州大学 ヨット部OG）
吉富愛（神戸大学 オフショアセーリング部OG）



<チームメンバー>

3. 大会概要

- 大会期間
令和7年10月1日～4日
- 開催地
California, USA（カリフォルニア、アメリカ）
－ Newport Harbor Yacht Club

- 大会日程

10月1日: エントリー、事前練習、全体ブリーフィング、開会式

10月2日: 予選シリーズ 1日目 (ステージ1)

10月3日: 予選シリーズ 2日目 (ステージ1)

10月4日: 決勝シリーズ (ステージ2~4)

REGATTA EVENTS

DATE	TIME	WHAT
WEDNESDAY, OCTOBER 1	11:00 - 15:00	TEAM CHECK-IN
	11:00 - 17:00	OPTIONAL PRACTICE
	17:30 - 18:00	TEAM PHOTOS (TEAM GEAR / COLLARS PLEASE)
	17:30-19:30	OPENING CEREMONIES & MEET THE TEAMS: COMPETITORS BRIEFING, REGATTA ROTATION DRAW, COCKTAILS & DINNER
THURSDAY, OCTOBER 2	08:00 - 09:00	BREAKFAST PROVIDED (& DELAYED TEAM CHECK-IN)
	08:30 - 09:00	MANDATORY COMPETITOR'S BRIEFING
	10:30	FIRST SIGNAL
	11:00	LUNCH PROVIDED
	POST RACING	POST RACING: SNACKS & REFRESHMENTS (NO DINNER PROVIDED) PLEASE SEE DINNER RECOMMENDATIONS AND RESERVATION DETAILS
FRIDAY, OCTOBER 3	08:00 - 09:00	BREAKFAST PROVIDED
	08:30 - 09:30	MANDATORY COMPETITOR'S BRIEFING & UMPIRE DEBRIEF
	10:00	FIRST SIGNAL
	11:00	LUNCH PROVIDED
	POST RACING	"BURGER BASH" DINNER PROVIDED
SATURDAY, OCTOBER 4	08:00 - 09:00	BREAKFAST PROVIDED
	08:30 - 09:30	MANDATORY COMPETITOR'S BRIEFING & UMPIRE DEBRIEF
	10:00	FIRST SIGNAL
	11:00	LUNCH PROVIDED
	17:30	AWARDS PRESENTATION: CELEBRATE WITH DRINKS AND HEAVY HORS D'OEUVRES RECOMMEND MAKING RESERVATIONS AT NHYC AFTER AWARDS PLEASE SEE DINNER RECOMMENDATIONS AND RESERVATION DETAILS



<レガッタスケジュール>

- 参加チーム

アメリカ (4チーム)、イギリス、イタリア、オーストラリア、オランダ、スウェーデン、

スコットランド、バミューダ、日本

以上、合計12チームが参加しました。



<Harbor20>

- レース形式

本大会では、Harbor20を使用した2Kのチームレース形式が採用され、ノックアウト方式を含む複数のステージで構成されました。

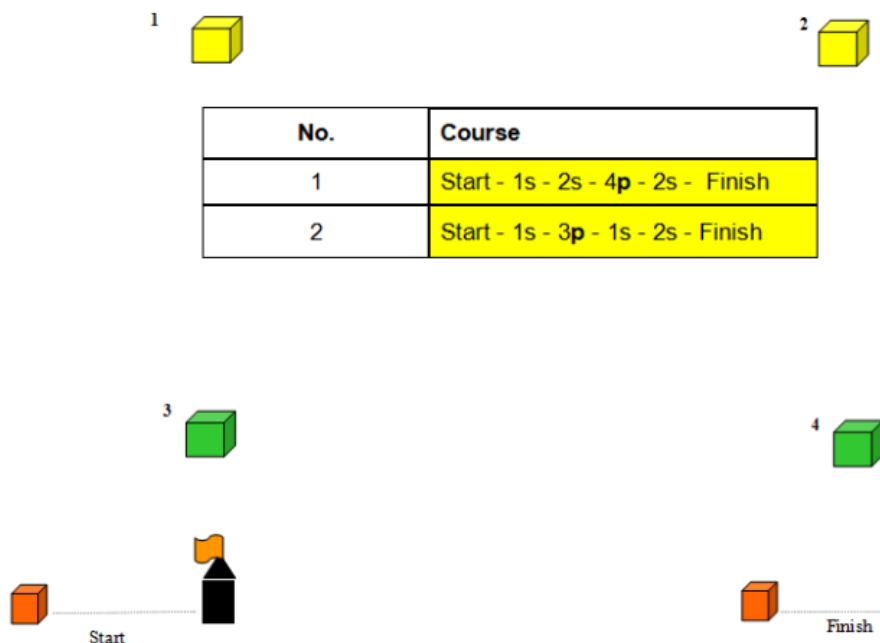
予選にあたるステージ1では、全参加チームによる2回のラウンドロビンが実施され、初回の組み合わせは開会式当日に抽選で決定しました。2回目の組み合わせは船を入れ替えた組み合わせとなり、ステージ1終了時点で上位6チームがステージ2に進出し、それ以外のチームはステージ1の成績に基づいて最終順位が確定しました。

ステージ2では、ノックアウト方式の準々決勝が行われ、進出チーム6チームが1位・2位がシードとなり、3位対6位、4位対5位の対戦が行われました。各対戦は2勝先取で勝者が次ステージへ進出しました。

ステージ3では、ステージ1の1位チームがステージ2勝者のうち1チームを選び、もう一方の勝者は2位チームと対戦した。各対戦は2勝先取で、勝者が決勝ステージへ進出。敗者は時間が許せば3位決定戦へ進みました。

最終ステージであるステージ4では、決勝と3位決定戦が行われた。3位決定戦は1勝先取で3位・4位を決定し、決勝は3勝先取で優勝チームが決定されました。

Note: Not to Scale



<レースコース>

- ペナルティ方式

RRS(セーリング競技規則)付則Dに基づき、アンパイア制(Umpired Racing)が導入され、本大会では“On The Water Judge”(即時判定型)による即時の判定とペナルティが適用されました。1レース4艇につき、2艇のジュリーボートが判定を行い、ペナルティに対して迅速な対応が可能な体制が整えられていました。艇は赤旗を振ることによって抗議の意思を示すことができ、また自己申告によるペナルティ解消方式も採用されており、違反艇は他艇から十分に離れた後、ジャイブまたはタックによってペナルティを実施します。これらの制度により、レース中のペナルティに対する抗議や解消は、他のレース形式と比較してより積極的かつ迅速に行われている印象を受けました。



<レース艇とジュリーボート>



<レース中の様子>

- レース運営
本大会の会場であるNewportヨットクラブは、レース海面がハーバーの目の前に位置しており、非常に利便性の高い環境でした。レース艇の乗り換えはすべてハーバー内で行われ、水分補給やランチの準備も整えられていたため、選手は常に万全の状態でレースに臨むことができました。このような環境と運営体制のもと、3日間で全144レースを完遂するという高密度なスケジュールが実現されました。運営のスムーズさと効率性があってこそそのスケジュールだと感じました。また、レセプションでは各国の紹介を兼ねた主催者による質問タイムが設けられ、各チーム間の交流が自然に生まれる場となり、競技だけでなく、国際交流を深める貴重な機会になりました。



＜レセプションの様子＞

4. 成績

Global Team Race Regatta 2025の成績は以下の通りです。

- 予選シリーズ(1日目、2日目)
ステージ1(Round Robin)、2日間で2Roundを実施しました。

ROUND ROBIN 1													
Team Name	Australia	Japan	Bermuda	Netherlands	USA (NYC)	Sweden	USA (StFYC)	Italy	USA (NHYC)	Scotland	England	USA (CYC)	RR 1 WIN
Australia		1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3
Japan	0		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
Bermuda	1	1		0	0	1	0	1	0	1	0	0	5
Netherlands	1	1	1		0	1	0	1	0	1	1	0	7
USA (NYC)	1	1	1	1		1	0	1	0	1	1	0	8
Sweden	0	1	0	0	0		0	1	0	0	0	0	2
USA (StFYC)	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	0	10
Italy	1	1	0	0	0	0	0		0	1	0	0	3
USA (NHYC)	1	1	1	1	1	1	0	1		1	1	1	10
Scotland	0	1	0	0	0	1	0	0	0		0	0	2
England	1	0	1	0	0	1	0	1	0	1		0	5
USA (CYC)	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1		10

ROUND ROBIN 2															
Team Name	Australia 1	Japan 2	Bermuda 3	Netherlands 4	NYHC 5	Sweden 6	SFHC 7	Italy 8	NHHC 9	Scotland 10	England 11	USA (CYC) 12	RR 2 Wins	RR 1 Wins	TOTAL WINS TOTALS
		0	0		0	1	0	0		0		0	1	3	4
	1		0	0			0	0		0	0	0	1	1	2
	1	1				1	0		0	1	0	0	4	5	9
		1			1	1		1	0	1	1	0	6	7	13
	1			0			0	1	0	1	1	1	5	8	13
	0		0	0			0	0	0	0	0		0	2	2
	1	1	1		1	1		1	0	1			7	10	17
	1	1		0	0	1	0		0			0	3	3	6
			1	1	1	1	1	1			1	0	7	10	17
	1	1	0	0	0	1	0				0		3	2	5
		1	1	0	0	1			0	1		0	4	5	9
	1	1	1	1	0			1	1		1		7	10	17

- 決勝シリーズ(3日目):ステージ2~4
予選シリーズの以下の上位6チームにより、決勝シリーズを実施しました。

最終順位

1. US Newport
2. US Corinthian
3. US St. Francis
4. Netherlands
5. US New York
6. England
7. Bermuda
8. Italy
9. Scotland
10. Australia
11. Sweden
12. Japan



<決勝順位>

5. 所感

まず始めにレースについては、他チームとのレベル差があり苦しい展開が多かったです。大会に臨むうえで、日本のアンパイアの方々にもご協力いただき、ヨットのルールやチームレースの戦術についての座学、2vs2のチームレースの動画研究を行いました。また、伊藤園マッチ等のマッチレースに参加するなど練習を積みました。しかし、練習と実践ではやはり大きく異なり、特に1日目は最初の上レグで決着が付いてしまうような、もどかしいシーンも多くありました。そんな中でも1日目に上がった反省点と、他チームへのヒアリングから学んだことを2日目以降は活かして臨みました。結果としては大きく変えられませんでした。しかし、レース内容としては成長を感じられました。具体的に改善できた点は、状況に合わせて攻撃する/抑える相手を柔軟に変えること、レース中艇間で頻繁にコミュニケーションを取ること、スタートはマッチレースのような1vs1のマニューバの力と、フリートレースのようなJust startを目指すTime & Distanceの力を組み合わせること等です。これらのことを改善したことで、フィニッシュ際まで競り合うケースも多くなり、手応えを感じられました。

これらの具体的な反省点は、座学や動画研究、練習会だけでは得られなかった、実際にこの国際大会という場で、経験豊富な他チームとレースをしたからこそ得られた、生きた反省であると強く感じています。一方で、今回のレースを通じて、今後さらに練習を積み重ねなければならないその他の反省も多くありました。具体的には、風の段を合わせる、艇速をコントロールしながら、相手をはめたり、押さえたりすることなどです。これらは練習を積み重ねないと克服できない課題であり、今回の経験を活かして日々の練習に落とし込んでいく必要があります。今回の国際大会参加は、世界のトップチームのレベルを肌で感じる非常に貴重な機会となりました。私たちは今回の反省を糧として練習を継続し、ぜひとも今後もチームレースの国際大会に参加し、いずれは勝ちたいと考えております。

そして、この大会を通じて痛感したのは、現時点の日本のチームレースのレベルの遥か上に国際大会のレベルがあるということです。一般的な日本の選手以上の時間を、海外の選手たちはチームレースに注いでおり、今回のレースを通してそこから生じる実力差をはっきりと感じました。この差は、日本と海外におけるチームレースの普及度や競技環境の違いを象徴しているように思えます。世界のレベル差と共に感じたのは、チームレースの面白さです。実際自分がレースに出ているときはもちろんのこと、上位チーム同士のレースを観戦した際に、順位が変化し続け、最後の最後まで勝敗が分からないところが、見ていてとても刺激的でした。この魅力的な競技が日本でもっと広まればいいと感じています。普及することで日本のチームレースのレベルも上がり、世界の強豪と渡り合えるチームが生まれていくはず。チームレース文化が日本中に広がり、各セーラーが競い合うような環境ができれば素晴らしいと思いますし、我々も積極的に日本のチームレースの大会に参加する等で出来る限りの貢献をしたいと考えています。

6. おわりに

日本セーリング連盟の方々には本大会をご紹介いただき誠に感謝しております。本大会への参加を通して、世界のチームレースのレベル、そしてチームレースの奥深さを知ることができる大変貴重な機会となりました。この経験をもとにさらにステップアップできるよう精進してまいります。この度は本当にありがとうございました。